



「あたりまえ」を繋ぐ

大田区立糀谷中学校 三年 永井 夢夏

中学二年生に上がったばかりの時、自分の体に異変を感じた。起きてすぐの時に突然やってくる手の震え。自分の思い通りに動いてくれない手。ご飯を食べている時や勉強をしている時などの手を動かす時に起こる謎の手が震える症状。私は自分の体が怖くなり、何か分からない症状に不安な気持ちが積もっていく一方だった。病院へ行くのが一番と思っていたけれど、「普通の病院でこの症状が何か分かるのか」「もし治療することになって多額のお金がかかったら？」という不安や家族に迷惑をかけたくない気持ちがあり、一人で抱え込んでしまった。

しかし、症状はだんだん悪化し、身体的に限界がきた私は、両親に相談することを決めた。今の体の状況を話すと、私に優しく言葉をかけ、一緒に病院へ行くことを約束した。その時、重かった気分が一気に軽くなるのを感じた。病院へ行くと「若年性ミオクロニーてんかん」ということが分かった。薬を毎日飲み続ければ、成人までには治るということを知れて、とても安心したことを覚えている。

今は、高校生まで医療費が無償化されているので、診察代も薬代もかからず、私は体も心もスッキリさせることができた。これは今「あたり

まえ」になっている税を納めるという行為のおかげだと改めて感じた。普段から人々が「あたりまえ」にしている税を納めるという行為で実際私は救われたし、悩みを解決することができた。「あたりまえ」から成り立っているものがどれだけの人を救い、幸せにし、笑顔へ繋いでいるのか。私は、この症状になってから知ることができた。この症状になったことは良い事でも喜べる事でも決してない。しかし、良い捉え方をするならば、この症状になったおかげでどれだけ「あたりまえ」が幸せなことなのか、税を納めるという行為がどれだけ大切で何人の人々を救うことができるのかに気がつくことができた。自分にとってすごく貴重な経験になったと思う。

私は、税についてよく知らなかったし、関心もあまり無かったけれど、身近なもので考えてみると、教科書、給食費、道路の整備、公共施設などと私達は日常の様々な場面で税と関わっている。「税」と聞くと良いイメージはあまり湧かないかもしれない。それは、一人一人が税についてよく知らず、使い道や税がどれだけ日々の生活に役立っているのかを知らないからではないかと私は考えている。

今回のことがあり、私達は税に支えられて生きているということを改めて実感することができた。私は、自分が救われた分の恩返しができるように、これから先、社会に貢献できることがあったら、どんどんチャレンジしていこうと思う。まだ中学生の私には、大したことができないかもしれないが、成人したら納税者の一員となり、日本を支えられるように、これからの人生に力を注いでいこうと思う。